

文学部A方式I日程・経営学部A方式I日程・人間環境学部A方式

3 限 選択科目 (60分)

| 科目 | ページ | 科目 | ページ | 科目 | ページ |
|-------|-------|-----|-------|-----|-------|
| 政治・経済 | 2～21 | 日本史 | 22～35 | 世界史 | 36～53 |
| 地理 | 54～67 | 数学 | 68～69 | | |

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象とならないので注意すること。なお、以下の注意事項も参照すること。
 - ・ 解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・ 解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
 - ・ その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
5. マークシート解答方法については、以下の注意事項を読みなさい。
 - ・ 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。


マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

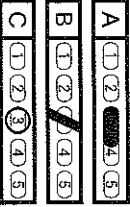
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよこしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 つぎの文章を読み、後の問いに答えよ。

ナポレオン戦争終了後のヨーロッパでは、反動的なウィーン体制のもと国際秩序が再建されたが、各国で産業革命が進展するにつれその社会は大きく変化しはじめた。その主役となったのが、新たに富を蓄えた産業資本家であった。彼らは政治的な参加や言論の自由の保障、経済的な規制の撤廃といった自由主義的な改革を要求し、貴族や地主といった旧来の支配階層と対立することとなった。

こうした新しい勢力による自由主義の運動は、多くの国でナショナルリズムの動きと連動していた。これにはさまざまな形態があり、なかには政府の側が国民の不满をそらすために対外的な侵略や国内の少数派に対する圧迫を強める場合や、逆に被支配者の側が自国政府に対し差別の撤廃や自治権・自治の要求をおこなうこともあり、さらにそうした動きを他国が支援することもあった。

いち早く産業革命を進めていたイギリスでは、自由主義的な 1 などが中心となってさまざまな規制が撤廃され、改革が進んだ。政治の領域では 2 がおこなわれて選挙権が拡大され、また経済の面では国内産の農作物を保護する 3 や、中継貿易を排除する 4 が廃止されたほか、1833年には東インド会社による 5 貿易の独占権も廃止された。その一方でイギリスは、カトリック教徒が多く住み、長年同君連合を形成していたアイルランドを1801年に正式に併合した。その後イギリスでは法律上は非国教徒やカトリック教徒に対する差別が撤廃されたとはいえ、アイルランドの人々はその後長くイギリスとのあいだの経済的な格差や同化の圧力に苦しむことになった。

フランスでは、反動的な復古王政に対してブルジョアジーを中心とする勢力が起こした七月革命の結果、自由主義的な 6 の率いる七月王政が誕生した。しかし、大ブルジョアジーや銀行家など新興勢力のごく一部の利益を擁護するにとどまり、中小資本家や労働者など中・下層民の権利拡大要求には応じな

かったため、1848年には二月革命が起こり、新たに共和政府が誕生した。フランスでは、復古王制時代末期に [7] を侵略していたが、これはその後政府が変わっても一貫してフランスの植民地として維持されていた。

⁽⁶⁾ 国民国家的統一の遅れていたドイツでは、ドイツ連邦を構成するプロイセンなどの邦で近代化改革がおこなわれたほか、一部の邦の間で [8] が結成されるなど経済的な統一はある程度進展し始めていた。そのなかで力をつけてきた自由主義的な市民層は、さらなる自由とドイツ統一を要求してオーストリア宰相メッテルニヒが指導する諸邦政府と対立するようになった。フランス二月革命の⁽⁷⁾ 知らせが入ると、ドイツ・オーストリア各地で三月革命が発生し、諸邦政府は自由主義勢力の要求に譲歩し、これによりウイーン体制は崩壊した。さらにドイツの統一と憲法制定を議するため、 [9] に初の国民議会が招集された。しかし、この議会では、ドイツ統一の方式に関して大ドイツ主義と小ドイツ主義という二つの異なる立場があり、またプロイセン国内のポーランド人少数派や、デンマークに住むドイツ人住民の問題をめぐっても⁽⁸⁾ 意見が対立した。

ドイツと同じく統一が遅れ分裂状態にあったイタリヤでは、1820年代から30年代にかけて各地で秘密結社 [10] が自由主義的改革と下からの統一を唱えて武装蜂起を繰り返し、さらにその活動は民衆運動を組織して共和主義に基づく統一を目指した [11] に引き継がれた。これと平行して北イタリヤの [12] が上からの国土の統一を推進していく。しかし⁽⁹⁾ イタリヤの一部を支配していたオーストリアに対する戦争は1849年に敗北に終わった。

また、1820年代から30年代にかけて、オスマン帝国に支配されていたギリシアや、ロシア帝国に支配されていたポーランドで、それぞれ自治や独立を求める運動がおこった。各国の自由主義者による義勇軍や各国政府の支援をうけて、ギリシアは1829年に⁽¹⁰⁾ 独立を達成した。

問 1 空欄 1 ~ 12 に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれひとつ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | | | |
|---|-------------|---|------------|---|------------|
| a | アルジェリア | b | 印紙法 | c | インド |
| d | インドシナ(ベトナム) | e | ゾライマル | | |
| f | カルボナリ | g | 航海法 | h | 穀物法 |
| i | サルデーニャ王国 | j | 青年イタリア | k | 第一回選挙法改正 |
| l | タウンゼント諸法 | m | 中国 | n | ドイツ関税同盟 |
| o | トリー党 | p | ナイジェリア | q | ナポリ王国 |
| r | ナロードニキ | s | フランクフルト | t | フリーメーカーソン |
| u | ブルシェンシヤフト | v | ホイック党 | | |
| w | ライオン同盟 | x | ルイ = ナポレオン | y | ルイ = フイリッツ |

問 2 下線部(1)に関連して、イギリスの産業革命の前提条件を説明した以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 海外植民地から輸入される紅茶・砂糖・綿織物といった品物が、人々の嗜好や日常生活を大きく変えた。
- b 強力な中央政府が、国王のリーダーシップのもと自由主義的な改革を断行した。
- c すでに発達していた問屋制の手工業を土台にして、新たに発明・改良された機械や蒸気による動力が綿工業を中心に利用された。
- d ノーフォーク農法などの進んだ農業技術と、囲い込まれた大農園により食糧の増産が可能となった。

問 3 下線部②に関連して、18世紀末から19世紀前半の世界各地のナショナリズムの動きについて述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a フランスでは、革命政権に敵対する外国の軍隊に対し、各地から集まった義勇軍がヴァルミーで勝利を得た。
- b インドでは、イギリス政府による帝国主義的な直接支配に対して、インド人傭兵を中心とする大反乱が起こった。
- c 南アメリカのスペイン領植民地では、クリオーリオと呼ばれた現地生まれの白人であったシモン＝ボリバルらが独立のため立ち上がった。
- d オランダの支配下にあったベルギーで暴動が発生し、独立が宣言された。

問 4 下線部③に関連して、イギリスの議会とその選挙制度について述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 18世紀初頭、ハノーヴァー朝の国王のもとで、議会で多数を占めた政党が政権を担当するという制度が定着した。
- b 産業革命の結果、人口移動が激しくなったため、有権者がほとんどいない腐敗選挙区が問題となった。
- c 19世紀初頭の改革では労働者層には選挙権が与えられなかったため、6カ条の要求事項からなる人民憲章を掲げるチャーティスト運動が起こった。
- d 女性に国政の参政権が与えられたのは第二次世界大戦後のことだった。

問 5 下線部(4)に関連して、アイルランドについて述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アイルランドは、テューダー朝の国王ヘンリ8世のときにイギリスによる征服が完了した。
- b アイルランドでは、1840年代後半以降ジャガイモの凶作がきっかけとなって多くの人がアメリカ大陸へと移住した。
- c 激しい独立運動にもかかわらず、19世紀の間はアイルランドに対して自治が認められることはなかった。
- d アイルランドが、アイルランド自由国として一応の独立を達成したのは、第一次世界大戦後の1919年のことである。

問 6 下線部(5)に関連して、フランス二月革命時の共和政府について述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 自由主義者が要求してきた選挙法の改革は結局おこなわれなかった。
- b パリにおける暴動によりギゾー内閣が倒れ、コミューン政府が組織された。
- c 社会主義者ルイ＝ブランが入閣し、失業者のための国立作業場を設置した。
- d 社会主義者・労働者が起こした六月暴動により、共和政府は崩壊した。

問 7 下線部⑥フランスの植民地について述べた以下の文を、正しい順番で並べたものをa～dの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
ア カリブ海エスパニョーラ島のフランス植民地は、独立を達成し、世界最初の黒人共和国ハイチとなった。

イ アフリカ大陸を横断して植民地を広げようとするフランスのもくろみは、イギリスの勢力範囲とぶつかり、両国間の武力衝突事件であるフレンチ事件が起こった。

ウ アルジェリアの隣国モロッコを保護領としたため、これに反対するドイツとフランスおよび同盟国の間に国際的緊張が高まった。

エ フランスが早くから経営に取り組んでいた北米大陸のカナダ植民地が、パリ条約でイギリスのものとなった。

- | | | | |
|---|---------|---|---------|
| a | イーイーウーア | b | ウーイーアーエ |
| c | アーウーイーイ | d | エーアーイーウ |

問 8 下線部⑦に関連して、オーストリア宰相メッテルニヒについて述べた以下の文のうち、正しいものの一つを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a 第3回対仏大同盟が崩壊したのち、オーストリア外相としてナポレオンとの同盟を促進したが、トラファルガー海戦でのフランス・スペインの敗北を見て、再びフランスに宣戦した。

b ウィーン会議を主催した際は、各国の利害対立が激しく、交渉が難航するなか、正統主義原則を提唱して、他国に対するオーストリアの優位の確保に努めた。

c ドイツ連邦内部で自由主義運動が激しくなると、カールスバートの決議を発してこれを取り締まった。

d 三月革命の結果、アメリカに亡命したが、後に帰国した。

問 9 下線部(8)に関連して、国民議会における意見対立について述べた以下の文のうち、正しいものをもつて選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 議会の議員は男子普通選挙によりドイツ連邦を構成する諸邦から選ばれた。
- b 大ドイツ主義とは、ドイツが中心になって他のヨーロッパ諸国を支配しようとする考えである。
- c 小ドイツ主義とは、プロクセンとオーストリアのみで統一ドイツ国家を形成しようとする考えである。
- d 議会代表によりドイツ皇帝に推戴されたプロクセン国王フリードリヒ＝ヴェルヘルム4世はヴェルサイユ宮殿で戴冠式を挙げた。

問10 下線部(9)に関連して、イタリアにおけるオーストリアの領土について述べた以下の文のうち、正しいものをもつて選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 15世紀、ハプスブルク家の神聖ローマ帝国は、ブルボン家のスペイン王国とイタリアの支配権をめぐる激しいイタリア戦争を戦い、最終的にスペイン勢力の駆逐に成功した。
- b 1796年から97年にかけて、ナポレオンはイタリア北部に遠征し、オーストリアとイタリア諸勢力連合軍を撃破した。
- c ヴェーン会議後、オーストリアはロンバルディア・ヴェネツィアの独立を認めた。
- d イタリア統一後もオーストリア領に残ったトリエスタなどの地方は、最終的に1945年にイタリア領となった。

問11 下線部⑩に関連して、ポーランドの状況について述べた以下の文のうち、正しくないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ロシア・オーストリア・プロイセンによる3次にわたる分割により、ポーランド王国が消滅した。
- b 1807年、ナポレオンはプロイセンから領土を割譲させ、ワルシャワ大公国を建国した。
- c ヲイーン会議によりポーランド王国が復活したが、領土は以前より縮小され、また王位を兼ねるロシア皇帝のもとで自由は大幅に制限された。
- d ポーランドが共和国として独立し、現在の国境線を画定したのは、第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約においてである。

問12 下線部⑪に関連して、ギリシアの独立について述べた以下の文のうち、正しいもの一つを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a オスマン帝国が支配する前は、この地は長らくロシア帝国の支配下にあった。
- b ナポレオンのエジプト遠征は、オスマン帝国に打撃を与え、各地の民族運動を刺激した。
- c イギリスのロマン派の詩人ワーズワースらが、義勇軍としてギリシア独立を援助した。
- d 敗れたオスマン帝国では、青年トルコが西欧化を目指してタンジマート(恩恵改革)を開始した。

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読み、後の問いに答えよ。

第一次世界大戦に、オスマン帝国が同盟国の側にたつて参戦すると、連合国は、その当時オスマン帝国による支配を受けていたアラブに対して、連合国への戦争協力の要請を行った。1915年には、当時、イギリスの駐エジプト高等弁務官の立場にあった [1] とアラブの指導者であったフセインとの間で協定が締結された。この協定に基づいて、アラブはオスマン帝国に対して反乱を起こしたのである。

しかしながら、その翌年には、イギリス、フランス、ロシアの間で、 [A] 協定が秘密裡に締結された。これは、1915年に [1] とフセインとの間で締結された協定とは矛盾した内容を含んでいる。さらに、イギリスは、1917年には、当時の外相 [2] の名前で宣言を出したが、この宣言の内容も、1915年に締結された協定とは大きく矛盾した内容をもつものであった。

第一次世界大戦でのオスマン帝国の敗北により、連合国による上陸が行われるとともに、連合国の支援のもとで [B] 軍の侵攻も行われた。さらに、オスマン帝国が1920年に連合国との間で締結をした条約によって、帝国はまさに解体の危機に瀕していた。^(d) 他方、アラブでは、民族主義者によって、シリアとイラクの独立が宣言されたが、オスマン帝国と連合国との間で締結された条約に基づいて、シリアは [C] の、そしてイラクは [D] の委任統治領とされることになった。^(e)

このような状況のもとで、当時トルコの軍人であった [3] は、連合国に対して妥協的な態度をとる当時のオスマン帝国の政府に対して反旗を翻した。彼は、1920年には、 [F] で大国民会議を招集し、オスマン帝国に侵攻していた [B] との戦闘後、これを撃退することに成功した。1922年には、 [F] 制の廃止が宣言された。これによって、メフメト6世は国外へと逃亡し、オスマン帝国が滅亡した。

1923年には、トルコ共和国が樹立された。この新政府の立法部は、 [3] によって結成された [G] によって、その主導権が握られること

になる。新政府は、連合国との間で新たにローザンヌ条約を締結した。また、翌24年に公布されたトルコ共和国憲法は西欧の憲法との類似点も多いことが大きな特徴であった。同年には、 ^(b) 制が廃止され、政治と宗教が明確に分離されることとなった。 3 は、その後も、 ⁽¹⁾ 多くの西欧化・近代化を押し進める政策を採用した。1934年には、これらの貢献に鑑み、大国民会議が 3 に 1 という尊称を贈った。

- 問 1 空欄 1 ~ 3 に入る最も適切な人名を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- | | | | |
|---|-------------|---|-----------|
| a | アブデユル=ハミト2世 | b | ウラービー |
| c | バルフォア | d | マクマホン |
| e | ムスタファ=カミール | f | ムスタファ=ケマル |
| g | メフメト=アリ | h | レセツプス |
| i | ロイド=ジョージ | | |

- 問 2 空欄 A ~ I に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|---------|
| a | アタテュルク | b | アラビア | c | アンカラ |
| d | イギリス | e | オーストリア | f | カリフ |
| g | ギリシア | h | 国民党 | i | サイクス・ピコ |
| j | 人民党 | k | セーザル | l | スルタン |
| m | トリヤノン | n | フランス | o | ロシア |
| p | リビア | | | | |

問 3 下線部(a)に関連して述べた次の文章中の空欄に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

第一次世界大戦が終結すると、フセインは、アラビア半島の西岸に [1] 王国を建国した。しかしながら、この国はイスラーム教のワツハーブ派に属する [2] との戦いに敗れ、 [3] 王国に併合されることとなった。なお、このワツハーブ派とは、 [4] 主義や [5] 派を強く批判することで、ムハンマド時代のイスラーム教に回帰することを強く唱えたイスラーム教の一派である。1932年には、 [6] は、 [6] 王国を建国し、その初代国王となる。

[語群]

- | | | | |
|---|-----------------|---|----------|
| a | イブン=アラブウル=ワツハーブ | b | イブン=サウード |
| c | 現実 | d | サイイド |
| e | サウジアラビア | f | シーア |
| g | 神 秘 | h | スンナ |
| i | ネジド | j | ヒジャーズ |
| k | ペルシア | | |

問 4 下線部(b)に関連して述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この協定において、アラブ諸国は、連合国への戦争協力と引き換えに、戦後、イギリスの委任統治のもとで、一定の独立を認めることが約束されていた。
- b この協定は、アラブ人に、戦後の独立国家の樹立を認める内容であった。
- c この協定の内容は、ニコライ2世の裏切りによって、オスマン帝国に暴露されることとなった。
- d この協定は、アラブ人とユダヤ人との間の融合を図ることを目的の一つとしていた。

問 5 下線部(c)に関連して述べた次の文章中の空欄に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

この宣言は、アラブ人が居住する [1] における、ユダヤ人による民族的な郷土の設立について、イギリスが支持する内容であった。この問題の起源は、1世紀に [2] によって、この地から、ユダヤ人が強制的に退去させられたことにまでさかのぼることができる。長期にわたって迫害を受けたユダヤ人の間に19世紀末にユダヤ人による国家を建国しようとする [3] 運動が起こることになる。この宣言はユダヤ人の [1] への帰還を促進することで、アラブ人との間に大きな対立を引き起こすこととなる。

〔語 群〕

- a イエルサレム b シオニズム c パレスチナ
d ペン＝イスラーム e ヲケドニア f ローマ帝国

問 6 下線部(d)に関連して述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この条約では、キプロス島はフランスに割譲されることとなっていた。
b この条約には、治外法権の復活の条項が盛り込まれた。
c この条約では、オスマン帝国はなんらの軍情的な制限を課されることはなかった。
d この条約によって、イギリスはオスマン帝国からスエズ運河地帯への駐屯権を獲得した。

問 7 下線部(e)に関連して述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この国では、1921年にフレイサルを国王とする王国が誕生した。
b この国が自治を認められるのは第2次世界大戦後のことである。
c 委任統治国の政策により、この国からレバノンが切り離された。
d この国は、1936年に完全な独立が認められた。

問 8 下線部(f)に関連して述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この方法は、名目的には、国際連盟から委任統治国が統治を委任される形を取っていた。
- b この方法は、敗戦国であるドイツやオスマン帝国に対して適用されたが、この後、今日まで適用された事例がない。
- c この方法は、普仏戦争の戦後処理に初めて適用された方法であった。
- d この方法は、民族自決主義を促進する役割を果たした。

問 9 下線部(g)に関連して述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この条約では、クルド人の自治区の建設が認められた。
- b エーゲ海沿岸にあるイズミルは、この条約によってトルコに返還されることになった。
- c キプロス島は、この条約によってトルコに返還された。
- d この条約によって、トルコは一時イギリスの委任統治領となるが、すぐに独立を回復する。

問10 下線部(h)に関連して述べた以下の文のうち、正しいものを二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この憲法では当初より、イヌラーム教が国教であるとの規定はされなかつた。
- b この憲法において、大統領の任期は4年と規定されている。
- c この憲法では、立法機関として、一院制の議会が設置されることが規定されている。
- d この憲法では、主権はムハンマドの後継者にあることが規定された。

問11 下線部(i)に関連して行われた政策を述べた以下の文のうち、正しくない

のを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アラビア文字を廃止し、ローマ字を採用した。
- b 女性に参政権を付与した。
- c 土地改革を実施した。
- d 一夫多妻を禁止した。

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読み、後の問いに答えよ。

明王朝の万暦年間⁽⁷⁾、国内外の難問題に忙殺されている間に、万里の長城の北、東北の地域に、明にとって脅威となる大きな勢力が生まれつつあった。それはかつて金国を作った民族である女真族であった。女真族は金国がモンゴルによって滅ばされて以後、まとまった勢力を形成することなく、明が建国した後は、部族単位でそれぞれ個別に明に従属していた。明は各部族の長に名目的に明の官職を与え、それぞれ異なる特権を与えた。このようにして、女真の各部族が互いに牽制しあい、その結果、大きく強固な集団を結成することがないように仕向けていたのである。

明の領土に接する位置にあったのが建州女真で、それは5つの部族集団からなっていた。その中の一部族から出たヌルハチは、明による統制が緩んできたのに乗じて、まず建州女真全体を統一し、ついで建州女真以外の諸部族をも従え、ついに女真全体の指導者となった。彼は建国して国号を後金と名付けた。それに先立ち、後金建国の過程で、ヌルハチは内モンゴルのモンゴル諸部族に対して強い影響力を発揮するようになっていた。また、遼東のサルツの戦いで明軍を破り、以後明と明の属国とされていた李氏朝鮮とに大きな圧力を加えるようになっていった。

ヌルハチの後を継いだホンタイジはかつての北元の系統を引くリンダン＝ハンが没した後、その子エジエを服属させ、その結果、リンダン＝ハンの勢力圏であった内外モンゴル地方を勢力下に収めることとなった。ホンタイジは国号を大清国と改め、民族名も女真から **A** へと改めた。1637年には李氏朝鮮を明の属国の地位から引き離し、清の属国とした。

明は崇禎帝の時代となっていたが、その治世の初年に早くも西北の地域において農民反乱が起こり、その勢力が急激に拡大しつつあった。**B** 年に李自成に率いられた農民反乱軍は北京を占領し、崇禎帝の自殺によって、明は実質的に滅んだ。明が清への備えとして山海関の地域に派遣していた呉三桂は、清の助力によって北京を奪回しようとして山海関を開いた。清の軍は北京から退いた李自成の軍に代わって北京を占領し、呉三桂の思惑に反して、そのまま清が中国を

支配する王朝となった。この時の清国皇帝はホンタイジの子の福臨であって、これがすなわち順治帝である。

清が中国を安定して支配するようになるには順治帝の次の康熙帝の時を待たなければならなかったが、清は中国支配を始めた当初において、すでに東北地方のみならず、内外モンゴル地方を勢力圏としていた。これが明と大きく異なる点である。この勢いは更に進んで東トルキスタンやチベットへと拡大していく。

順治年間から康熙年間の前半にかけてチベット⁽⁴⁾で政教ともに指導的地位にあつたのはダライラマ5世であった。彼はジュンガルの部族長ガルダンと結び、全モンゴル族に影響を与えようとして、清朝と対立するようになった。ガルダンは一時外モンゴルにおける一大勢力となった。康熙帝の清はガルダンと戦い、ガルダンの死によって外モンゴル、天山山脈の南北、東トルキスタン、チベット等に対する清朝の影響力は益々強固なものになっていった。これらの地域への支配は乾隆時代にはほぼ確立し、東トルキスタンと天山山脈南北の地域は併せて新疆⁽⁴⁾と呼ばれるようになる。

このように清朝の支配領域は広大なものになっていったが、それは同時に様々な民族を抱え込むことを意味した。したがって、これらの諸民族を安定した状態で支配することも大きな課題となった。それに加え、19世紀に入って外部⁽⁴⁾の勢力が進出してくると、それに備えて軍事的にも、外交⁽⁴⁾的にも対応することが求められるようになっていった。

問 1 文中の空欄 , に入る適切な語ないし数字を解答题紙の該当欄に記せ。

問 2 下線部(イ)について、万暦年間の初期に財政の立て直しに功のあった宰相は誰か。

問 3 下線部(イ)について、このような官職の者に率いられた組織を何と呼ぶか。

問 4 下線部(ウ)について、このような特権のうち、馬市と並んで重要なものは何か。

問 5 下線部(エ)について、皇帝の自殺の後も明の復興を図って清に抵抗した勢力を応援した福建出身の人物は誰か。

問 6 下線部(オ)について、清による征服戦の先鋒となったのは呉三桂等に率いられた漢人の部隊であったと言われるが、これらが後に各地に配置されて、主に治安を担当する組織となった。これを何と呼ぶか。

問 7 下線部(カ)について、かつて元の時代にチベットから大都に赴いてモンゴルの国字を作ったのは誰か。

問 8 下線部(キ)について、フランスが清朝に迫って宗主権を放棄させた王朝は何か。

問 9 下線部(ク)について、アロー戦争後、外交を専門とするために設けられた中央機関は何か。

問10 下線部(カ)について、金国が滅ぼされた年は次のうちのどれか。正しいものの記号を解答用紙の該当欄にマークせよ(以下、解答方法は同じ)。

あ 1115年 い 1206年 う 1234年 え 1279年

問11 下線部(ハ)について、明の統制が緩んだ一つの原因として、日本の豊臣秀吉が朝鮮半島に派遣した軍との戦いがあった。朝鮮出兵の最初の年は次のうちのどれか。

あ 1573年 い 1592年 う 1597年 え 1600年

問12 下線部(c)について、明代のモンゴル地方において北元の系統を引いていたのは次のうちのどれか。

あ 完顔部 い オイラト う 拓跋氏 え タタール

問13 下線部(d)について、19世紀半ばの太平天国の反乱とほぼ時を同じくして新疆で起きた、回教徒の反乱を鎮圧したのは次のうちの誰か。

あ 左宗棠 い 李鴻章 う 林則徐 え 張之洞